

(平成28年 7月分)

種 類	市況の概況
(水産物部の動向) 水 産 物 全 般	7月の総入荷量は、前年同月に比べると鮮魚、冷凍魚、加工水産物の全てで入荷量が減少となり、全体として6%の減少となった。 取扱金額は、冷凍魚が値上がりしたことにより前年同月並みとなったが、鮮魚、加工水産物は価格が前年並であったことから、取扱金額が減少となり、全体として前年同月と比べ4%下回った。
(区分別の動向) 鮮 魚	7月の鮮魚の入荷量は、前年同月と比べ6%下回ったが、平均単価は前年同月並みであった。 品目別には、よこわ、びんちょう等が好漁で入荷が上回ったため、価格は値下がりした。かつお、はまち(天然)等は漁獲の減少で入荷が下回ったため、価格は値上がりした。 8月後半には、はもの需要が減少していくため、求めやすい価格となってくる。はも落とし、てんぷら、付け焼き、はもしゃぶ等お勧めである。また20日にはさんま漁の大型船が解禁となり、漁が本格化するが、今年はさんまの好む冷水域が遠方にあり、航海日数がかかることから、前年と同様に不漁となることが危惧されている。
冷 凍 魚	7月の冷凍魚の入荷量は、前年同月と比べ4%下回ったことから、平均単価は6%上回った。 品目別には、冷さけは主体のチリ産銀さけの価格が値上がりしたものの、需要が強いことから入荷は増加した。冷さばは原料となる大型サイズが国内外ともに少ないため、価格は値上がりとなり入荷は減少した。海外養殖えびは主産国のインドで、バナメイ種が主体となりブラックタイガー種が減産となったことから、先を見越してブラックタイガー種が値上がりとなり、冷えび全体の平均価格も値上がりとなっている。 6月から始まっているブリストル湾のさけ漁は7月に盛漁期を迎え、前年と同様に好漁であり、今後の価格交渉が注目される。

加 工 水 産 物	7月の加工水産物の入荷量は、前年同月と比べ6%下回ったが、平均単価は若干上回る程度であった。 品目別には、塩さばは、需要の多い大型サイズが少なく、価格が高かった影響で入荷が減少した。またちりめんは、漁獲の低下により入荷は減少したが、前年並みの高値で推移した。 8月には、新物の塩さんま時期となるが、現時点では不漁が予想されており、入荷の時期が遅くなる可能性もある。 また、8月16日より山口県や島根県では沖底曳き網漁業が解禁となるため、干かれいの新物が8月下旬より入荷予定である。
-----------	--

※生鮮魚：鮮魚，貝類，淡水魚

※冷凍魚：冷凍魚（鯨肉を除く）

品 目	市 況 の 概 要
(鮮魚主要品目)	
ま あ じ	京都，千葉で水揚げされたもの主体の入荷で，入荷量は前年同月と比べ２０％上回ったため，価格は２５％下回った。
ま い わ し	愛知，北海道で水揚げされたもの主体の入荷で，入荷量は前年同月と比べ４％下回ったため，価格は４％上回った。
さ ば	石川，三重で水揚げされたもの主体の入荷で，入荷量は前年同月と比べ２８％下回ったため，価格は２８％上回った。
す る め い か	青森，長崎で水揚げされたもの主体の入荷で，入荷量は前年同月と比べ５２％下回ったが，前年からの不漁続きで，価格は９％上回った。
太 物	入荷量はめばちまぐろは５０％下回ったが，本まぐろが１１％，きはだまぐろが２５％上回ったことから，太物類の総入荷量は前年同月と比べ１２％上回ったため，価格は２２％下回った。
は も (近海)	兵庫，愛媛で水揚げされたもの主体の入荷で，入荷量は前年同月と比べ１６％上回ったため，価格は１９％下回った。
た こ	岡山，兵庫で水揚げされたもの主体の入荷で，入荷量は前年同月と比べ１７％下回ったため，価格は１０％上回った。
(冷凍魚主要品目)	
冷 さ ば	入荷量は前年同月と比べ３０％下回ったため，価格は８％上回った。
冷 す る め い か	入荷量は前年同月と比べ３０％下回ったため，価格は２０％上回った。
(加工水産物主要品目)	
塩 さ け	入荷量は北海道，ロシア産の塩紅さけの取扱が減少した影響で，前年同月と比べ９％下回ったものの，低価格のチリ産銀さけが入荷を伸ばしたことから，価格は１０％下回った。

開 干 あ じ	長崎，鳥取産主体の入荷で，入荷量は前年同月と比べ１３％上回ったため，価格は２０％下回った。
---------	---